

頑張る 農業法人

「地域農業を守り育てるため、地域一体感のある組織として頑張る」福知山市下川口地域の8集落の農家が設立した、農業生産法人「株式会社・味歩里(みぶり)」の牧晴喜社長は力強く語る。

地域の8集落のほか、近隣の集落の農作業受託や米の乾燥、調製作業を受け持ち、さらにJAから水稻育苗も委託され、毎年1万5000枚以上をハウスで育苗管理してきた。

集落型の農業生産法人としては府内初の株式会社。高齢化や担い手不足による農地の荒廃を防ぐため、作業受託、施設園芸、食品加工販売など多角的な経営に向けて取り組んでいる。

営農意欲が高い地域である一方、高齢化や後継者不足が進んだことから農地荒廃を防ごうという気運も高まった。地域全体で法人組織化を目指して、2006年に8集落で「下川口法人化促進検討委員会」を発

下川口同地域は、同市中部に位置し、施設園芸が盛んで、以前から集落の「牧管農組合」と、JAが設置したライスセンターを運営する「下川口地域農作業受託組合」があった。

当初は農事組合法人考えたが、ライスセンターの運営や加工販売などの多角経営や雇用による所得確保を目指すことから株式会社形態とした。

株式会社 味歩里 福知山市



九条ねぎ洗浄作業に取り組むスタッフらと牧社長(左)

地域一体で組織運営

としては、府内で初めて業員は男女10人で、季節ごとに5人を臨時雇用する。現役員は、牧社長と荒河富雄常務、牧登会長、菊田哲夫副会長、大槻副会長と監査役3人。従業員は、農地17畝を現在では、水稻14畝、九条

受託、園芸、加工など多角化

ねぎを露地1畝とハウス16棟で生産するほか、キュウリなど野菜類や白大豆などを栽培し、JA京都に出荷する。九条ねぎは市内の小学校の給食用にも使用される。また、農家の水稻育苗も受託し、各戸に配達する。40戸25畝の稲刈りも受託している。さらに女性従業員が、麴やみそ、米粉の洋菓子などの加工に取り組んでおり、業者や消費者からの引き合いも多い。今後は、丹波くり、ミカン、柿などの果樹も増やして、観光農園で地域活性化を目指す。

牧社長は「会社の設立当初は厳しかったが、年を追うごとに経営も軌道にのってきた。近い将来、野菜工場を設け、多品目の野菜をつくるなど若い世代に引き継げる基盤をつくりたい」と意気込む。

▽法人所在地 福知山市 牧神谷285の1。電話 0773(23)3320。